

大腸がんを正しく知り、早期発見につなげるために

2026年2月

第一病院

TEL：03-3607-0007

FAX：03-3609-2260

【大腸がんとは？】

大腸がんの多くは、「大腸ポリープ（腺腫）」が長い時間をかけてがん化して発生します。

厚生労働省の発表する「人口統計」によると、長らく、日本人の死亡原因の第1位はがん(悪性新生物)となっています。その中でも大腸がんは、最も患者数が多いがんの一つです。

2021年以降の統計では、男性の死亡原因の1位は肺がん、2位は大腸がんですが、女性の1位は大腸がんとなっています。

女性は、女性特有の臓器である乳がんや子宮がんといった癌にかかるイメージが強いですが、実は大腸がんが最も危険な病気なのです。

【主な症状】

大腸がんは、早期のうちはほとんど症状がありませんが、進行するにつれて、徐々に次のような症状が現れてきます。

- ・ 便に血が混じる、便の表面に血がつく
- ・ 下痢と便秘を繰り返す
- ・ 便が細くなる、お腹が張る
- ・ 原因不明の貧血や体重減少

※ 上記のような症状があっても、癌があるとは限りませんが、早めの受診が大切です。

【大腸がんのリスク要因】

多くは日常的な生活習慣にリスク要因がありますが、一部には遺伝的影響も関与します。

- ・ 「肉類」や「加工肉」の多い食事、「食物繊維」の不足
- ・ 運動不足・肥満
- ・ 喫煙や飲酒
- ・ 家族に大腸がんの人がいる
- ・ 慢性の腸の病気（潰瘍性大腸炎など）

※ 生活習慣の改善は、がんの予防につながります。

【早期発見のために】

大腸がんは早期に見つければ、多くは完治します。しかし早期には症状が出にくい

ため、大腸がん検診を受けることが最も大切です。大腸がんで死なないために、40歳以上の方は、毎年「大腸がん検診」を受けましょう！

●大腸がん検診 … 便潜血（せんけつ）検査

- ・ 便に混じった微量の血液（潜血）を調べる検便検査です。年に1回の受診が推奨されています。
- ・ 陽性の場合には、大腸内視鏡検査で精密検査を行い、ポリープがあればその場で切除します。大腸がんがあれば細胞を採取して確認します。

【診断と治療】

● 診断

- ・ 大腸内視鏡検査が最も重要な検査です。
- ・ 必要に応じて組織検査を行い、CT や MRI などで行進度を確認します。

● 治療

がんの進行度に応じて、次の治療を組み合わせで行っています。

- ・ 内視鏡治療（早期の場合）
- ・ 手術（腹腔鏡下手術または開腹手術）
- ・ 抗がん剤治療
- ・ 放射線治療（主に直腸がん）

【今日からできる予防のポイント】

- ・ 野菜・果物・食物繊維を意識して摂る。
- ・ 肉類・加工肉を摂りすぎない。
- ・ 適度な運動を続ける。
- ・ 禁煙・節酒。
- ・ 40歳以上の方は毎年大腸がん検診を受ける。

【最後に】

大腸がんは「気づきにくいがん」ですが、検診で早期に見つければ治る可能性が高いがんです。あなた自身と大切な人のために、ぜひ毎年の検診を習慣にしてください。

当院の外科は、東京医科歯科大学と東京工業大学が合併して2024年秋に誕生した『東京科学大学』の関連病院として、大腸がんに対してさまざまな治療を行っています。

基本的な方針としては、早期の大腸がんに対しては内視鏡治療を、初期～中期の進行がんに対しては腹腔鏡手術を、高度進行がんに対しては開腹手術（＋抗がん剤治療）を、東京科学大学と連携しながら行っています。

現院長の杉原健一は、長らく「東京医科歯科大学 腫瘍外科教授」として、日本の消化器がん治療を牽引してきました。現在、院長の指導のもと、大腸がんに対して『最善の治療』を行うよう、日々努めています。

外科医師 豊岡 正裕